

ここに見える永秀は寿永二年（一一八三）、平家が源氏に追われて大宰府に入った時に、緒方惟栄、臼杵惟隆等の豊後武士団とともに大宰府を攻めて、九州から平家を追い落とした勇将である。右の木造毘沙門天立像に見える文治三年（一一八七）は壇ノ浦の戦いの翌々年にあたる。

慈眼山永興寺は、日田を代表する名刹のひとつであり、廣瀬家ともゆかり深い寺であったから、淡窓の『懷旧樓筆記』や『日記』にも、関係記事が頻出するのは当然であるが、注目されるのは二月・三月の桜花の鑑賞、つまり花見の記事の多いことである。

・天保七年（一八三六）

三月二十日 伸平、丑六ト共ニ城内ニ遊フ。謙吉、来真、図書、平三郎、俊吾従行ス。観音閣ニ上リテ桜花ヲ賞ス。酒ヲ酌ミ茗（カク・ヤマニラ）ヲ烹、時ヲ移シテ帰レリ。

・天保七年

二月二十五日 密乗来別。已時與謙吉 散歩。来真。圖書。平三郎。俊吾従行。過魚町拉伸平。丑六同往。登城内観音 閣、賞桜花。花酌酒煮茗。移時而同帰。伸平留話。紙屋平右衛門亦会至。皆供飯。是日清明和暖。然亦有風。

・天保十二年（一八四一）

二月二十日 天氣清美。午牌與伊織。範治散歩。観花。先到城内観音閣。山桜盛開。次至大原。亦有桜焉。不及城內 未牌帰家。伊織招 飲西家。

という具合である。このほか「日記」には観桜の記事が頻出する。

上馬場大神宮と城内八坂社（図1・20、21）

城内観音閣への遊山にあつては、近くの上馬場大神宮や城内八坂社（上馬場祇園祠）をめぐる帰る事例も多い。「日記」に

・文政十二年（一八二九）

九月十四日 已時與謙吉。菓三、元秀之魚町。遂拉伸平。同遊城内観

音閣。平蔵。衡平。元郁亦至。發行厨移時而去。登東山。謁上馬場大神宮。又小酌於東塾。近幕而散。

・天保三年（一八三二）

二月二十一日 三與謙吉詣府而謝。見近臣。帰路遊城内観音閣。宗仙。劣亭。元春。寿亭従行。既而諫山春安。和田一平亦至。喫飯及茶。遂詣上馬場善行寺。再發行厨。喫酒乃帰。

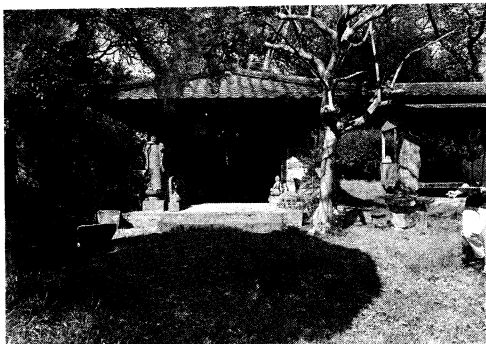
・嘉永二年（一八四九）

一月二日 開講。講尚書堯典。謁大原神祠。範治。主一郎。元芳。孝之助。宣司。善八郎従行。常作僕。初謁龍馬森神祠。（略）遂謁上馬場祇園祠。帰而午飯。與興範治。孝之助。上塚。などとある。上馬場大神宮は、慈眼山の東南の丘陵上にある。ここには現在も「大神宮」「お伊勢様（堂）」として祀られている祠がある。またその南にある城内八坂社は社を含めて公園となっている。

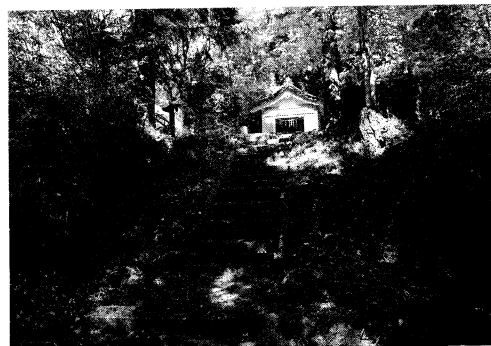
以上の慈眼山—上馬場神宮をめぐるコースは、前記の吹上神社のコースと並んで、いわばもつとも近場「遊山」の地であつた。

大原八幡宮（図1・22）

城内観音閣（慈眼山）、上馬場神宮のすぐ南に位置するのが大原八幡宮（大原神社・大波羅八幡宮）である。この神社は、いうまでもなく日田を代表する神社として市民の尊崇をあつめている神社である。



城内八坂社



上馬場大神宮（お伊勢堂）